



奥能登地域における水稲の晩植に係る留意点について

気象災害対策R6-1
令和6年4月19日
農林総合研究センター

I 概況

能登半島地震で農地や用排水路等が被災しており、現在、復旧作業が順次行われています。

5月中の田植えは収量減少のリスクが小さく、また、今夏も高温が予想されている中で、晩植は高温対策にも繋がることから、以下の点に留意しながら、より多くの水田に水稲を作付けしましょう。



II 田植えが5月下旬以降になる場合の留意点

〔参考1〕北陸地方の暖候期予報

北陸地方 暖候期予報 (06月~08月)		
2024年02月20日14時00分 新潟地方気象台 発表		
夏 06月~08月	天候	6月から7月は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。その後は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率60%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	北陸地方	夏 06月~08月	10 30 60
降水量	北陸地方	夏 06月~08月	30 30 40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

〔参考2〕移植栽培における田植え晩限の目安

品種	標準			収量確保晩限 (収量減なし)			【参考】成熟晩限 (収量5割減)		
	田植日	出穂期	成熟期	田植日	出穂期	成熟期	田植日	出穂期	成熟期
早生	5/1~10	7/20頃	8/26頃	5/30	7/31頃	9/7頃	6/30	8/18頃	9/29頃
中生	5/1~10	8/1頃	9/12頃	5/30	8/7頃	9/21頃	6/30	8/28頃	10/18頃
晩生	5/1~10	8/10頃	9/26頃	5/30	8/15頃	10/5頃	6/15	8/27頃	10/20頃

※ 輪島アメダスデータの平年の平均気温を使用し、登熟に必要な積算気温を確保できる期間から逆算して試算

1 種子予措

(1) 気温、水温が高いため、

- ①薬剤による種子消毒を確実にを行う(温湯消毒は避ける)
- ②種子消毒を含めた浸種期間は6~8日を目安とする(品種毎の浸種積算温度を厳守)
- ③毎日水替えを実施する
- ④浸種中に発芽してしまうことがあるので、よく観察し、鳩胸程度までに留める

2 育苗管理

(1) 育苗期間

- ・普通期移植栽培と比べ育苗期間の気温が高いため、稚苗(2.0～2.5葉)となるまでの期間は播種後18日程度である

※ 田植え予定日と適正な育苗日数の目安

	晩期移植		(参考) 普通期移植
	浸種	4月23日	5月5日
催芽	5月1日	5月12日	4月8日
は種	5月2日	5月13日	4月9日
田植	5月20日	5月30日	5月5日
育苗期間	19日間	18日間	27日間

(2) 管理のポイント

- ①緑化したら直ちにハウスの窓を全開放し、換気に努める
- ②高温、多湿条件では病害、ヤケが発生しやすくなることに留意する

3 田植え～活着後

普通期移植栽培に比べて栄養生長期間(出穂までの期間)が短くなるため、早期の有効茎確保に努める

(1) 栽植密度

- ・60株/坪以上を厳守し、中山間地では70株/坪とする

(2) 植付本数、植付深度

- ・4～5本/株とし、第1葉が見える程度の植付深度で分けつを促進する

(3) 活着したら、直ちに浅水管理で分けつの促進を図る

(4) 地温が上がりやすく、ガスによる根傷みが発生(下葉の黄化)しやすいので、田干しを行う

4 施肥管理

(1) 施肥窒素量

- ・総収量を制御するため普通期移植栽培から2～3割程度減じる

(2) ケイ酸質資材の施用

- ・稲体が軟弱になりやすいため、春耕起時や中間追肥時にケイ酸質資材を施用する

5 水管理

- ・被災等により十分な用水の確保が困難な地域では、節水のため、浅水代かきの実施や、水尻は原則、閉めっぱなしとして強制落水しないなど、生育段階に応じた必要最低限の水の利用に努めるとともに、集落単位で計画的な水管理を行う

6 中干し

(1) 目標穂数の7割に達したら速やかに中干しを開始する

- ・概ね移植20～25日後を目安とする

(2) 中干し開始時期が梅雨入り後になるため、溝切を行い、排水改善に努める

7 雑草防除

気温、水温が高いことから、以下の点に留意する

- (1) 老化苗を移植すると、薬害が発生しやすくなる
 - ・必ず稚苗（2.0～2.5葉）を移植する
- (2) 普通期移植栽培に比べて、藻や表土剥離が発生しやすくなる
 - ①発生が多いとイネの生育が抑制され、枯死することもある
 - ②田干しの頻度が高まることから、中後期剤の使用が必要な場合がある

8 病虫害防除

普通期移植栽培に比べ稲体が軟弱になりやすく、いもち病や紋枯病の発生に注意が必要である

- (1) 苗箱処理の病虫害予防粒剤を必ず施用する
- (2) 基幹防除
 - ・周辺のは場と生育ステージがちがうので、ドリフトに注意して防除する
 - ①出穂 2日前 : いもち病、紋枯病、虫害防除
 - ②出穂 7～10日後 : いもち病、虫害防除
 - ③出穂 14～17日後 : 虫害防除（特にクモヘリカメムシ）